

平成24年度新生児聴覚検査実施状況のまとめ

平成25年12月

鳥取県福祉保健部子育て王国推進局子ども発達支援課

- ・新生児聴覚検査は、聴覚障がいを早期発見し、早期に児及び保護者に支援を行うことを目的として実施している。
- ・平成24年度は、県内の分娩取扱産科施設16か所のうち、検査実施施設の15か所について実施状況の調査を行った。(※検査未実施施設1は H25年8月より検査を開始)
- ・県全体の検査実施率は、年々上がってきており、平成24年度は96.8%(前年度比3.2%増)となった。
- ・このことは、医療機関等のご理解とご協力により、保護者の理解が進んだことによるものと考えており、新生児聴覚検査の早期発見及び早期支援体制の構築に繋がっている。

※この調査は、出産のための入院中に実施した検査結果をとりまとめたものであるが、出産した病院からNICUへ転院した場合、医療機関が異なる場合があるため、検査実施機関を「NICU入院児を除いた状況」と「NICU入院児」に区分して調査したものである。

1 新生児聴覚検査実施状況

- ・県全体の検査実施率は、96.8%(前年度比3.2%増)となった。



年度	検査実施状況		
	出生、入院児数	検査件数 (D)	実施率 (D/B)
24年度	5,690	5,506	96.8%
23年度	6,073	5,682	93.6%
22年度	5,837	5,449	93.4%
21年度	5,608	5,205	92.8%

(1) NICU入院児を除いた状況

①実施状況

- ・検査実施率は96.8%であり、前年度と比べ3.2%増加した。
(H22年度：93.5%、H23年度：93.6%)
- ・未実施の理由は転院(NICU含む)の他に「費用がかかるため、保護者が希望しない」が多かった。
- ・実施率を圏域別で見ると、東部は98.8%(前年度比2.8%増)、中部圏域は97.6%(前年度比14.7%増)、西部圏域は94.7%(前年度比1%減)となっている。
- ・精密検査紹介件数は、検査結果でリファアとなった児を精密検査機関へ紹介した件数であるが、件数に差があるのは1ヶ月健診時の再検査でパスとなった児と県外者の里帰り出産児が含まれていないためである。

圏域	検査実施状況			検査結果			精密検査紹介数		
	医療機関 出生児数	検査 件数	実施率	パス	リファー	リファー 率	県内 耳鼻科	県外 耳鼻科	その他
東部	2,070	2,045	98.8%	2,028	17	0.83%	5	1	0
中部	864	843	97.6%	838	5	0.59%	2	1	0
西部	2,226	2,109	94.7%	2,095	14	0.66%	12	0	0
合計	5,160	4,997	96.8%	4,961	36	0.72%	19	2	0

※検査結果：パス→正常、リファー→要再検査

②検査機器別実施状況

県全体としての検査機器ごとのリファー率は下表のとおりである（併用はAABRに計上）。
検査実施15施設のうち、AABR使用は9施設（60.0%）、OAE使用は4施設（26.7%）、併用2施設（13.3%）である。

②検査機器別実施状況（併用はAABRに計上）			
検査機器	検査件数 (B)	リファー (C)	リファー 率 (C/B)
AABR	3,807	16	0.42%
OAE	1,190	20	1.68%
24年度合計	4,997	36	0.72%
(参考) 23年度合計	5,126	59	1.15%

(2) NICU 入院児の状況

- ・全体の検査実施率は、96.0%であり、昨年度と比べ2.6%上昇した。
- ・実施率を圏域別で見ると、東部が92.8%（前年度比4.4%増）、中部は93.9%（前年度比2.0%増）、西部は100.0%（前年度同比）となっている。

圏域	検査実施状況			検査結果			精密検査紹介数		
	医療機関 入院児数	検査 件数	実施率	パス	リファー	リファー 率	県内 耳鼻科	県外 耳鼻科	その他
東部	194	180	92.8%	178	2	1.1%	2	0	0
中部	114	107	93.9%	107	0	0.0%	0	0	0
西部	222	222	100.0%	216	6	2.7%	6	0	0
合計	530	509	96.0%	501	8	1.6%	8	0	0

※NICU 医療機関では、すべて AABR を使用。

2 精密検査実施状況

(1) NICU 入院児を除いた状況

①実施状況

出産のための入院中の検査でリファーとなっていた児が、精密検査の結果、正常とされたいわゆる偽陽性は全体で11例中5例で、AABRでは4例中1例（25.0%）、OAEでは、7例中4例（57.1%）であった。

	スクリーニング結果					精密検査結果			
	県内医療機関からの紹介	県外医療機関からの紹介	検査機器	結果	人数	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
全県	11	0	AABR	一側リファア	3	2	0	1	0
				両側リファア	1	0	1	0	0
			OAE	一側リファア	6	1	0	4	1
				両側リファア	1	0	1	0	0
合計					11	3	2	5	1

②難聴児の聴力の内訳と紹介件数

NICU入院時を除いた難聴児の聴力の内訳は以下のとおりである。県内の聾学校への紹介は2件、県外の難聴児教育施設へ紹介された事例はなかった。

	程度	一側難聴	両側難聴	正常	不明	紹介件数		
						県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ	その他
全県	軽度難聴	1	2	5	1			
	中程度難聴	1	0			2	0	0
	高度難聴	1	0					
合計		3	2	5	1	2	0	0

(2) NICU入院児の状況

①実施状況

出産のための入院中の検査でリファアとなっていた児が、精密検査で正常とされたいわゆる偽陽性は8例中4例(50.0%)であった。

	県内産科からの紹介	県外産科からの紹介	スクリーニング結果		精密検査結果			
			検査機器	結果	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
全県	8	0	AABR	一側リファア	0	1	2	0
				両側リファア	1	1	2	1
合計					1	2	4	1

②難聴児の聴力の内訳と紹介件数

NICU入院児の難聴児の聴力の内訳は以下のとおりである。県内の聾学校への紹介は2件、県外の難聴児教育施設へ紹介された事例はなかった。

	程度	一側難聴	両側難聴	紹介件数	
				県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ
全県	軽度難聴	0	2	2	0
	中等度難聴	1	0		
	高度難聴	0	0		
合計		1	2	2	0

3. 市町村及び保健所訪問指導実施状況

市町村保健師が新生児訪問の際に保護者から受けた相談件数である。

ケース：【新生児訪問での相談】検査でリファアとなり、精密検査を勧められたとの相談に対し、専門機関への受診を勧めている。

区分	相談件数	関係機関からの指導依頼				新生児訪問での相談	健診・予防接種等の場	その他の経路による相談	電話相談
		新生児スクリーニング実施医療機関から	聴覚精検実施医療機関から	保健所から	その他の機関から				
東部圏域市町村・保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中部圏域市町村・保健所	1	0	0	0	0	1	0	0	0
西部圏域市町村・保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	0	0	1	0	0	0

4. 療育・教育指導実施状況

県内精密検査機関から4件、その他の2件は紹介ではなく、聾学校を知っていた保護者が自発的に相談に来たものである。

4 療育・教育指導実施状況（指導実人員数）				
療育・教育機関	人数	紹介者		
		耳鼻科医	保健師	その他
聾学校	6	4	0	2
その他	0			
合計	6	4	0	2

5. 参考

平成24年度鳥取県出生届出数 4,655人